ＡＡＦＣ分科会

菊池

ＭＪＱの魅力

ＭＪＱは 1946 年から 1948 年にかけてルイス・ジャクソン・クラーク、ベーシストのレイ・ブラウンで構成されたディジー・ガレスビービッグバンド・リズムセクションから生まれました。1951 年にミルト・ジャクソン・カルテットとしてレコーディングを行い、ブラウンが抜けてベーシストはハーシー・ヒースと交代した。‘５０年初頭から中頃にはモダン・ジャズ・カルテットとなり、プレステージ・レコードでレコーディングを始める。

この頃ジャズの人気はＬＡに移り、ウエストコーストジャズが注目されはじめ、ＮＹではビハップからクール・ジャズが台頭してきた頃でした。ＭＪＱはビバップと一線を画した音楽を目指していました。浮き沈みの激しいＪＡＺＺ界の中で、同じコンセプト、かつ演奏水準を落とすことなく４０年以上（1952～1997 年）グループを継続できたのは奇跡かも知れません。タキシードを着て演奏する姿は人気を博し、特に白人層に広く受け入れられた。

彼らのＪＡＺＺはクラッシック（バロック）の対位法からのアレンジ、室内楽的なアンサンブルにスイング感覚やブルース感覚を加え、感情に流されることのない構成美、この微妙なバランスの中でＪＡＺＺを最大限に表現した。ＭＪＱが黒人ジャス・ミュージシャンのイメージ向上とナイトクラブではなく音楽ホールでの演奏の普及に貢献した。

世の中にはＪＡＺＺは生で聞かなければ本物のＪＡＺＺは聞けないとか、新しくなければいけないとか、新しいものはいいとか、何年も前の吹き込みだからとか決めつけるのはおかしい。否定はしないが、今聴いても色あせないＪＡＺＺ＝ＭＪＱがそこに有ります。

＜参考資料＞

1945　太平洋戦争終結
1948　ＬＰレコード発売・・・録音時間が延びた　後に『クールの誕生』ＬＰ化
1949　45 回転レコード
1950　朝鮮戦争・・・西海岸の景気が良くなる
1952　サンフランシスコ講和条約　ウエストコーストジャズが盛んに
1956　秋吉敏子渡米　　エルビス・プレスリーがブレイク（ロックンロール）
1958　ステレオＬＰ（日本）　ブラジルでボサノヴァ・レコード
1959　マイルス・・・『カインド・オブ・ブルー』モード手法
1961　ジャズ・メッセンジャーズ来日・・・ファンキーブーム

※ビバップ　ダンス音楽から即興演奏を主体にコード（和音）進行を土台にしつつリズムやテンポなどを変化させる

チャーリー・パーカー　チャーリー・クリスチャン

※ウエストコーストジャズ

朝鮮戦争によりカルフォルニアは好景気でレコード産業や映画産業が栄えた。多くのミュージシャンも移動してきた。白人ミュージシャンが多く、管楽器が加わる。

ジェリー・マリガン・カルテット　チェット・ベイカー

アート・ペッパー

※ハード・バップ

朝鮮戦争が訪れます。（1955 年頃）ビバップに対し、ハード・パップはアドリブ以外の部分（イントロ・テーマ・メロディー・エンディング）に注意を払った構成力に富むサウンド。

アート・ブレイキー　ホレス・シルバー　キャノンボール・アダレイ

※クール・ジャズ

音楽理論の要素を取り入れて、知的な抑制を加えた新スタイル

マイルス・ディヴィス九重奏団　ジュリー・マリガン　ジョン・ルイス

１・ＤＪＡＮＧＯ　　1955 年　　プレステージ（ｍｏｎｏ）

※ＤＪＡＮＧＯ（7：03）　　名ギタリスト　ジャンゴ・ラインハルトに捧げた曲

※ＯＮＥ　ＢＡＳＳ　ＨＩＴ（2：58）

２・ＭＪＱ／ポギーとベス　　1965 年

ジョージ・ガーシュインのオペラ『ポギーとベス』のインストルメンタル版

※サマータイム（6：00）

※ベス・ユー・イズ・マイ・ウーマン（5：33）　　オペラの中ではポギーとベスの２重唱

３・バッハとブルースを基に　　1973 年　アトランティック

※リグレット（2：04）　　バッハ：コラール前奏曲“古き年の過ぎ去りゆく”

※Ｂフラットのブルース（4：56）　　（ジョン・ルイス）

※やさしき朝の光（3：28）　バッハ：コラール“目覚めよと叫ぶ声あり”

４・Ｔｈｅ　Ｌａｓｔ　Ｃｏｎｃｃｅｔ　1974　アトランティック

ニューヨーク・リンカーンセンターにあるアベリー・フィッシャー・ホール

※朝日のようにさわやかに　（6：30）　　シグムンド・ロンバーグ作曲

『ニュー・ムーン』の中の一曲

※シリンダー　（5：30）　（ジョン・ルイス）

※サマータイム（7：49）